

韓国教育放送公社における英語の学校放送番組分析

カレイラ松崎順子

1. はじめに
 2. 第7次教育課程
 - 2.1. 小学校における英語教育
 3. 2007年改訂教育課程
 4. Korean Educational Broadcasting System English (EBS-e)
 5. 本研究の目的
 6. 番組分析
 7. 考察
 8. 今後の課題およびまとめ
- 引用文献

キーワード：韓国 英語教育 番組分析
EBS-e SEL

1. はじめに

日本の小学校において外国語活動が2011年度より正式に必修化されるが，その前にいくつか解決しなければならない問題がある。第一に，英語補助教員（Assistant Language Teacher，以下ALT）や英語専門教員の確保など市町村により地域差が見られるため，日本全国同じ条件で小学校の外国語活動を行っていきけるかということである（岡・金森，2007）。第二に，今後小学校の教員が中心となって英語を教えるようになることは予想できるが，英語があまり得意でない小学校教員も多い。ゆえに小学校教員をサ

ポートする教材が早急に必要である。第三に，英語教育における小・中・高校の連携をどのように行うかということである。

ところでこのような問題を解決する一つの策として学校放送番組があげられる。誰でも簡単に活用できる学校放送番組の活用は小学校外国語活動の大きな助けになるであろう。NHK教育テレビは2000年に小学校中学年向けの英語番組「えいごリアン」の放送を始め，続いて2002年より小学校高学年向けの「スーパーえいごリアン」，その後2005年に小学3年生対象の「えいごリアン3」を放映していたが，現在は「えいごルーキーGABBY」という小学校高学年を対象にした英語番組を放映している。その他高校生用のNHK高校講座の「英語1」が放映されているが，中学生用の番組は放映されていない。

一方，韓国の小学校¹では，1997年に小学3年生から英語を正規教科として取り入れており，小・中・高一貫の教育課程の確立，国定教科書や教材の開発，充実した教員養成，研修制度など，周到な準備のもとに英語教育が導入された（樋口，2005）。このような小・中・高一貫の英語教育を支えるために，2007年より韓国教育放送公社（Korean Educational Broadcasting System，以下EBS）の英語番組専門放送チャンネル（Korean Educational Broadcasting System

1 韓国では小学校のことを初等学校（1997年当時は国民学校）と呼んでいるが，本稿では日本の小学校の

ことも論じるため，混乱をさけるため韓国の初等学校を小学校として記載する。

English, 以下EBS-e) において学校英語レベル (School English Level, 以下SEL) と呼ばれる英語の学校放送番組が始まった。

日本と韓国は外国語としての英語 (English as a Foreign Language, 以下EFL) すなわち外国語としての英語教育の環境にあり, 「アジアの非英語圏」という「外国語学習環境」という点で, 似通った環境にある。韓国の英語教育の情勢は, 今後の日本の英語教育を考えるうえで大いに参考になるであろう。ゆえに, 本研究では韓国のEBS-eのSELの番組分析を行うことにより日本の英語教育に示唆を与えていく。

2. 第7次教育課程

韓国では1954年以降, さまざまな教育改革がなされてきた。第1次教育課程 (1954~1963) から始まり, 第2次教育課程 (1963~1974), 第3次教育課程 (1974~1981), 第4次教育課程 (1981~1987), 第5次教育課程 (1988~1991), 第6次教育課程 (1992~1996) と続き, 1997年12月30日に第7次教育課程が告示された (河合, 2004)。

韓国の小学校における英語教育は, 1972年に一部の指定学校で特別活動の時間に行われ, 第4次教育課程がはじまる1981年より教育改革の一環として小学4年生以上を対象に「特別活動」のなかで始まった (金, 2007; 杉山, 2008; 師子鹿, 2009)。1980年代の韓国は経済的に大きく発展し, 1988年に第42回オリンピックがソウルで開催されるなど, 韓国が国際化にむけて真剣に取り組み始めた時代である (師子鹿, 2009)。そのような中, 小学校における英語教育は第5次教育課程がはじまる1988年に学校ごとに自由な学習活動を行うことができる「裁量時間」を利用しながら主に小学5・6年生を対象に実施された。さらに, 1995年11月に, 1997年から小学校において英語を正規の必修科目とすること, 小学3年から学年進行で段階的に導入す

ることが告示され, その後2年間の複数の研究校における試験実施が行われたのち, 第7次教育課程が1997年に制定された (杉山, 2008; 師子鹿, 2009)。小学3年生から段階的に導入され, 2000年度には小学6年生までが英語の授業を受けている。なお, 必修化をめぐることは, 反対する立場から, 母国語である韓国語に対する弊害, 教材未整備, アイデンティティ獲得の障害, 英語教員の不足 (金, 2007), 現場教員の反発や相反する保護者の過剰な期待 (杉山, 2008) など日本と同じような議論が繰り返された。

第7次教育課程は「人材育成の目標として, ①国際化・情報化に対応できる基礎能力を保持し, ②個性豊かで創造的な能力を発揮でき, ③韓国および国際社会に貢献できる一人材の育成をあげている」 (樋口, 2008, pp.127-128)。また, 小・中・高一貫を目指しており, 小学1年生から高校1年生は「国民共通基本教育課程」として一貫性のあるカリキュラムを編成し, 高校2年生から高校3年生は「選択中心教育課程」という水準別授業を実施した (樋口, 2008)。小学校においては共通課程の「基本課程」のほか「深化・補充型水準別教育課程」を導入し, 能力別授業を推奨している。「深化・補充型水準別教育課程」は児童が能力と個人差に応じて教育を受けることができるように, 「基本課程」の達成水準に達しない児童を対象とする「補充課程」と「基本課程」の達成水準に達した児童を対象とする「深化課程」に分かれている (韓国教育部, 1997)。

さらに, 小・中・高を通じた英語教育の目標について以下のような項目があげられている (韓国教育部, 1997)。

- 英語に興味と自信感を持ち, 意志疎通を図れる基本的能力の育成
- 日常生活と一般的な話題に関して無理なく意志疎通ができる
- 外国の多様な情報を理解し, これを活用で

きる能力を養う

- 外国文化を理解したうえで自国の文化を新たに認識し、正しい価値観を養う

また、小・中・高の連携に関しては、小学校において、英語に対する親近感と自信を植え付け、英語に対する興味と関心を持続的に持たせ、このような雰囲気と学習態度は、中学・高校での英語教育に引き継がれ、英語活用能力を向上させる礎となるようにすると記載されている（韓国教育部, 1997）。

さらに、第7次教育改革によって修学能力検定試験（College Scholastic Ability Test）が導入された。これは日本の大学センター入試に相当するもので、修学能力検定試験の英語の試験は実用主義志向が強く、伝達を重視した言語テストである（樋口, 2007）。

2.1. 小学校における英語教育

第7次教育課程において小学校の英語教育の指導方針として以下のようなことがあげられている（韓国教育部, 1997）。

- 実生活の中での感覚と経験が思考と行動に深く作用し、好奇心が強いという小学校の児童たちの特性を考慮する。
- 実生活で接することのできる感覚と遊びを中心とし、体験学習を通じて発見の楽しさを味わうことができるようにすることが効果的である。
- 児童は、記憶する能力が十分とは言えず、集中力も長く続かないので、反復学習等やマルチメディアのような、多様で興味を引くことのできる教育媒体の活用を推進する。

また、必修化導入時の1997年は第6次教育課程が適用されており、当初、小学校において、英語は週2時間（1授業時間は40分）実施されることになった。しかし、2001年度から開始された第7次教育課程において「裁量時間」が

「裁量活動」に改称されるとともに従来の週0～1時間から週2時間に拡大されたことに伴い、英語の授業時間数が小学3年生から小学4年生では週1時間に減った。なお、小学5年生から小学6年生では週2時間実施されている。したがって、英語の年間実施時間数は、小学3年生から小学4年生で34時間、小学5年生から小学6年生で68時間である（韓国教育部, 1997）。

教科書に関しては、当初は検定教科書を使用していたが、第7次教育課程の導入とともに、2001年から各学年国定教科書1種類のみを使用することになり、国定の教科書が配布されるようになった。各教科書にはパソコンを使って授業の予習、復習といった家庭学習ができるCD-ROMが、また教科書巻末には授業中にゲームなどで使用するカードがそれぞれ添付されている（杉山, 2008）。

指導方法は、遊びを中心にした体験的な学習が推奨され、チャンツや歌、ゲーム、ロールプレイなど活動中心の授業を目指している。また、マルチメディアのような、多様で興味を引く教育媒体の適切な活用が推奨されている（杉山, 2008）。小学3年生から小学6年生向けの英語の教科書は、カラフルな装丁で、歌やゲームなどの音声タスクを中心に構成され、子どもたちに身近な学校や家庭における場面や登場人物として韓国人が多く登場する等、子どもたちを飽きさせずに、英語の4技能が学年を通して段階的に習得できるように構成されている（杉山, 2008）。シラバスは機能（Function）を中心にし、文法項目を織り交ぜ（杉浦, 2006）、身近な事物・出来事に関する題材や生活語彙を扱うことで、英語で身の回りのことを表現できるように編集されている（杉山, 2006）。

韓国の小学校では英語専科教員が授業を担当することや英語がより得意な教員が他のクラスの授業を担当することが今ではかなり多くなっ

たが、基本的にはALTに過剰に頼らず自国の教員が担当することを目指している。ゆえに、韓国の小学校の英語教育に関する教師養成・研修制度は充実している（樋口，2005）。全国教育大学と教員研修センター（教育委員会）が韓国政府の委託を受けて「基礎（一般）研修」（120時間）と「一級正教師資格研修」（160時間）を毎年実施している（八田，2007）。研修は原則として各地方自治体単位で開かれ、必要経費は参加者の交通費に至るまで全て国家から支給される。全国全ての小学校教員に受講資格があり、夏季休業中の3週間、日曜日を除く毎日実施されている（八田，2007）。

3. 2007年改訂教育課程

2007年に第7次教育課程が10年ぶりに改訂され、2009年度から随時施行されている。第7次教育課程では、小学3年生は「聞く」「話す」のみで、小学4年生で「読む」を開始し、「書く」は、小学5年生から導入されていたが、2007年の改訂で、「読む」が、小学3年生に、「書く」が、小学4年生に導入されることになった。さらに、第7次教育課程では「基本課程」と「深化課程」に分かれ、児童の水準に応じて多様な教授法を展開するというものであったが、実際は現状の学校システムに対応できなかったため2007年の改訂では、「深化課程」を廃止し、すべての児童が習得すべき基本事項のみを記載している（杉山，2009）。

また、2008年に就任した李明博大統領は「英語公教育完成プロジェクト」を発表し、国家競争力の向上のために人材育成と私的教育費の負担減という視点から、公立学校における英語教育を強化するため、英語以外の科目も英語で授業を行う「英語没入教育」いわゆるイマージョン教育の導入や小学校での英語授業時間数の増加などを計画した。この計画を2008年から2014年までの7年間で段階的にすすめ、教育環境の

ために総額4兆ウォン（約4521億円）を投じる予定であるという（杉山，2009）。

4. Korean Educational Broadcasting System English (EBS-e)

韓国では毎年小学6年生を対象に「国家水準学業成就評価」という全国規模の学力テストを実施しているが、都市と地方の点数差は英語が最も著しく（渡辺，2008），そのような問題を解決する方策の一つとして、多様なマルチメディア資料や情報コミュニケーション技術（Information and Communication Technology, 以下ICT）ツールを活用することを奨励している。これらのメディアの代表であり、政府が最もその発展に力を注いでいるのが、2007年4月に開局した英語番組専門放送チャンネルであるEBS-eである。

EBSは1990年にKBS（韓国放送公社）から教育放送部門が分離して開局した教育放送の専門局であり、2003年に公社化され、現在のEBSとなった。EBSは地上波として教養・文化・芸術番組を行っており、衛星波は、EBSプラス1（大学入学試験専門番組）、EBSプラス2（小・中学生向け番組・資格取得・職業訓練）、およびEBS-e（英語番組専門）の3つにわかれている。なお、EBS-eは衛星放送とともにケーブルテレビでも配信されており、韓国全世帯の約8割が視聴可能であり、日本の文部科学省にあたる韓国の教育科学技術部が財政支援を行っている（渡辺，2008）。

EBS-eは視聴者を「幼児」、「小学生」、「中学生・高校生」、「母親・教師」、「成人・一般」の5つに区分したゾーン編成を行っている。この5つのゾーンのなかで最も大きな部分を占めているのが、小学生向けの番組である。また、SELと呼ばれる学校放送番組がある。SELは10シリーズから構成され、SEL1からSEL5は小学生、SEL6からSEL8は中学生、SEL9から

表1 SEL 1 からSEL10の番組一覧

対象学年	SEL	学期	番組名	指導内容
小学1・2年生	SEL 1	1・2学期	Alice's Wondergarden	フォニックス
小学3年生	SEL 2	1学期	Go Go Timegirl	語彙・文法
小学3年生	SEL 2	2学期	Word Circus	語彙・文法
小学4年生	SEL 3	1学期	Wow! Gameland	語彙・文法
小学4年生	SEL 3	2学期	Gra Gra Grammar	語彙・文法
小学5年生	SEL 4	1学期	Spy Zone	語彙・文法
小学5年生	SEL 4	2学期	New Spy Zone	語彙・文法
小学6年生	SEL 5	1学期	Tok Tok English	語彙・文法
小学6年生	SEL 5	2学期	Cyber tales	語彙・文法
中学1年生	SEL 6	1学期	What's Up? English	読む・書く
中学1年生	SEL 6	1学期	Nonstop English	読む・書く
中学1年生	SEL 6	2学期	Reading Adventure	読む・書く
中学2年生	SEL 7	1学期	Three Golden Keys	読む・書く
中学2年生	SEL 7	1学期	English Burger	読む・書く
中学2年生	SEL 7	1学期	Speaking Factory	読む・書く
中学3年生	SEL 8		English Diary	読む・書く
高校1年生	SEL 9		고지잡이 English	
高校2年生	SEL10		맛있는 English	

注EBS-e (n.d.) のホームページより抜粋 著者が翻訳

SEL10は高校生を対象にしている。SEL1はフォニックス、SEL 2 からSEL 5 は語彙と文法、SEL 6 からSEL 8 は「読む」「話す」ことに重点が置かれている（表1参照）。

5. 本研究の目的

韓国がこのように放送番組に力を入れているのは、都市と地方の学力格差が見られるためであり、このような格差を解決するための手段として注目されたのが放送やインターネットなどのメディアを使った学習教材である（渡辺，2008）。韓国は、すでに小学校で英語を教科として教えており、教員養成および小学校の英語教育をサポートするための教材や環境という点において日本より進んだ英語教育を行っており、日本が参考にできる点が多い。日本では、韓国の言語政策・メディア関係の研究は行われているが、EBS-eの研究はほとんど行われていない。

日本の英語教育における学校放送の在り方は、2011年度より正式に必修化される小学校外

国語活動にとって重要な問題である。ゆえに、EBS-e のSELに関する研究は日本の英語教育および学校放送番組の在り方に多くの示唆を与え、と考え、本研究の着想に至った。本研究では、EBS-eのSELの番組分析を行い、日本はSELからどのようなことを学べるのかを探っていく。さらに、SEL 1 からSEL10まですべての番組を分析することを通して英語教育の小・中・高一貫教育に関する示唆も得ていく。

6. 番組分析

本研究ではEBS-eのホームページ上のSEL 1 からSEL10の各番組を視聴し、それぞれの番組の特徴を記載していく。

SEL1（小学1・2年生）Alice's Wondergarden

SEL 1 のAlice's Wondergarden（1学期32回・2学期32回）は小学1・2年生を対象にフォニックスを教える番組（e.g., Short A/ Long A/ Phonics Party:OU）である。出演者は韓国人児童3名、アリス役の韓国人児童1

名，および英語母語話者男性2名であり，「不思議の国のアリス」をテーマにしているため，出演者がかなり派手な衣装を着ている。画面に英語の字幕が表示されることが多く，児童に英語を読ませることが目的であることがわかる。歌・ゲーム・アニメ・劇などを多く取り入れており，視聴している児童が楽しんでフォニックスを学習できる。

問題点として，フォニックスを教える以外の部分はほとんどが韓国語である点があげられる。音声にはある時期になると習得するのが難しくなるという臨界期（Scovel, 1988）があり，それが7歳あるいは8歳などと言われている。ゆえに，もう少し視聴している児童に英語を聞かせる部分を増やすべきではないかと思われる。ただし，EBS-eには児童向けの番組としてその他マザーグースの歌や物語など英語の番組が多く放映されているため，必要に応じていろいろな番組を組み合わせさせて視聴することができる。多様な番組を提供しているがゆえに，SEL1ではフォニックスにテーマを絞った番組を放映することができるのであろう。

SEL 2（小学3年生）Go!Go! Time Girl

SEL2のGo!Go! Time Girl（1学期32回）は小学3年生を対象にした「話す」「聞く」ことに焦点をおいた番組である。Go!Go! Time Girl（e.g., Hello! T-Girl / Today's Key Words / Today's Quiz），English Cook Cook（e.g., Welcome Red hood / Cooking Time / It's for you），およびMusical Party（e.g., Today's Story / Party up / Play Musical）の3つの番組で構成されている。出演者は韓国児2名，韓国語母語話者女性1名，および英語母語話者男性1名である。英語母語話者が主に英語のみで児童に語りかけているため，視聴している児童がSEL1よりも英語を多く聞くこと

ができる。Go!Go! Time Girlはタイムマシンで歴史的人物に会うなど児童を飽きさせない構成になっているが，出演している児童の英語力が低いため，間違った英語を話すこともある。

ところで日本でかつて放映していた「スーパーえいごリアン」に出演していた児童の英語力は標準以下であったが，それは番組制作側の狙いとして視聴している児童に「英語があまりできなくてもあのようにコミュニケーションすればいいのだ」という自信を持たせるためであった（カレイラ，2007）。Go!Go! Time Girlも同じような狙いがあるのではないかと推測できる。

SEL 2（小学3年生）Word Circus

SEL2のWord Circus（2学期32回）は小学3年生の教科書に掲載されている語彙を学習するサーカスをテーマにした番組（e.g., Wash Brush Comb/ Nod Shake Turn/ Can Have Use）である。出演者は小学校高学年から中学生の韓国児2名と英語母語話者男性2名である。出演している韓国児は歌と踊りが上手であり，英語も上級レベルである。SEL1およびSEL2のGo!Go! Time Girlに比べて英語が多く使われており，ターゲットになった表現を歌やアニメを通して学ぶようになっている。また，アニメを使ってフォニックス（例：big・wig・pig・digなど）の学習も行っている。

SEL 3（小学4年生）-Wow! Game Land

SEL3のWow! Game Land（1学期32回）は小学4年生を対象にした番組であり，「話す」「聞く」ことに焦点をあてており，Wow! Game Land（e.g., Hello Pip / Today's Expression / Mission），English Cook Cook（e.g., Wow! Magic scoop / Cooking Show / Why not?），お

よび Musical Party (e.g., Twist! Twist / Twister's Story / Today's Keyword How old are you?) の3つの番組で構成されている。出演者は韓国人児童4名, 韓国語母語話者女性1名, および英語母語話者男性1名である。Wow! Game Land では, Game Landという設定になっているため, ゲームを多く取り入れており, また, ターゲットになる表現をアニメ, ドラマ, および歌を通して繰り返し学習していく。英語母語話者は英語のみで話しかけているが, 韓国語母語話者は英語を話した後に, 逐次韓国語に訳している場面が多く見られ, もう少し英語のみで児童に英語を理解させる工夫が必要であろう。

SEL 3 (小学4年生) Gra Gra Grammar

SEL 3 のGra Gra Grammar (2 学期32回) は, 文法学習に焦点をあてた小学4年生のための番組 (e.g., I am Harry/ Are you a student?/ I am sad) であり, 出演者は韓国人児童1名, 韓国語母語話者女性1名, および英語母語話者男性2名である。文法を映像・絵・チャッツなどを使用して説明し, また, ハリーポッターのキャラクターを採用するなど児童の動機づけを高めようとする工夫が番組の随所に見られる。文法学習に重点を置いているため, 韓国語で行う文法説明がかなり多いが, 小学生を飽きさせないように2・3分ごとに場面を変え, 人称代名詞の説明を有名人の写真のお面を使って説明するなど, いろいろな工夫をしながら文法を説明している。小学生に文法を教えるとき, 参考になる番組である。

SEL 4 小学4年生 Spy Zone

SEL 4 のSpy Zone (1 学期32回) は, 小学5年生に4技能「読む」「話す」「聞く」「書く」を学習させる番組であり, Spy Zone

(e.g., Mission possible / Hi, Young & Joe! / English vs Konglish), Science (e.g., 英語で学ぶやさしい科学 / アインシュタインに習う科学英語), および Social Studies (e.g., Theory Time / Welcome to Powerlab / Funny Science) の3つの番組で構成されている。Spy Zone は毎回6名の児童がミッションを受け, そのミッションを遂行していく形で番組が進行していく。出演者は韓国人児童6名, 韓国語母語話者女性1名, および英語母語話者男性1名である。出演している児童の英語のレベルは韓国の小学5年生として標準的であり, 特に演技をするわけでもなく, 英語母語話者と韓国語母語話者の指示に従って楽しくゲームを行っている。Science およびSocial Studies は内容重視の指導法を取り入れた番組である。内容重視の指導とは「教科内容と第2言語スキルを同時に指導すること」(Brington, Snow, & Wesche, 1989, p.2) であり, 各教科の枠組みを超えて1つのテーマを学習することにより各教科での既習事項や経験を活用しながら, テーマを深めたり, 統合したり, 発展したりすることができる (Stryker & Leaver, 1997)。

韓国の小学5年生として標準的な英語のレベルである児童に英語のみで話しかけているため, 出演している英語母語話者が他の番組の英語母語話者よりもわかりやすい英語で語りかけている。他の番組では, 児童に英語を理解させるために韓国語を使うか, あるいは高い英語力を持つ児童を出演させているが, Spy Zoneでは, 標準的な英語力の児童に英語で話しかけているため, 簡単な単語を使う, ゆっくりと大きくはっきりと話す, ジェスチャーを交えて話すなど話し方の工夫が随所に見られる。ゆえに, Spy Zoneはどのように児童に英語で語りかけるべきかなど小学校の教員に参考になる部分が多い。上述の「スーパ

ーえいごリアン」に類似した番組であり、「スーパーえいごリアン」よりも行っているゲームがそのまま教室で行うことができるものが多く、現場の小学校の教員が参考になる番組である。

SEL 4 小学 5 年生 New Spy Zone

SEL 4 のNew Spy Zone（2 学期16回）は小学 5 年生用の番組（e.g., They are aliens: Personal Pronouns/ The dragon was small: was, were/ What does he do at night?: Present tense）であり、出演者は韓国人児童 3 名および英語母語話者男性 1 名である。毎回、韓国人児童がミッションを受け、そのミッションを遂行していく形で番組は進行していく。たとえば、Unit1 のミッションはFind the dangerous thing in the Yukanda forestというものであり、環境問題（森のごみについて）をテーマにしているが、同時に文法学習にも重点が置かれており、複数形の作り方などの文法説明をリズムのよい歌に合わせてアニメや映像を見せながら3名の韓国人児童が行っていた。

New Spy Zone に出演している韓国人児童はSpy Zoneに出演している韓国人児童よりも英語力は高く、ほとんど英語で英語母語話者とコミュニケーションを行っており、映像・アニメ・チャンツなどを使いながら文法説明を行っている。今後日本において小学生に文法を教える際に参考になる番組である。

SEL 5（小学 6 年生）Tok Tok English

SEL 5 のTok Tok English（1 学期32回）は、小学 6 年生に 4 技能「読む」「話す」「聞く」「書く」を学習させる番組であり、Tok Tok English（e.g., Vocabulary Checkup / Activity / Feel the Rhythm）、Science（e.g., What is it?/Experiment / Brush up / Science Cheer）、お

よびSocial Study（e.g., Where are we? / Popup Quiz / Brush up / Feel the Rhythm）の 3 つの番組で構成されている。Science と Social Studyでは内容重視の指導法を採用しており、小学 6 年生の興味を引く内容が多い。出演者は韓国人児童 4 名、韓国語母語話者女性 1 名、および英語母語話者男性 1 名である。英語母語話者は英語のみで話しかけているが、出演している児童の英語のレベルが高いため、視聴している児童の中には番組で話される英語が理解できない児童も多いと予想できる。たとえば、Science のUnit 1ではlight energyやrefractedなどかなり難しい語彙が使われていた。

SEL 5（小学 6 年生）Cyber tales

SEL 5 のCyber tales（2 学期16回）は小学 6 年生対象の文法学習の番組（e.g., Countable nouns/ Uncountable nouns, Present simple）である。出演者は韓国人児童 1 名および英語母語話者男性 1 名であり、韓国人児童が文法説明を韓国語と英語で行っている。その他、小学生が出演し、テーマになっている文法を使って質問をし、それに英語話者が答えるコーナーがある。全体的にSEL 4 のNew Spy Zone のような工夫は感じられず、テレビというメディアの特徴を生かして、もう少し小学生が興味を持つことができる番組を制作するべきであろう。日本の 6 年生にはかなり難しい内容であり、日本の中学 1 年生に適切な番組である。

SEL 6（中学 1 年生）What's Up? English

SEL 6 のWhat's Up? English（1 学期26回）は中学 1 年生に 4 技能「読む」「話す」「聞く」「書く」を学習させる番組（e.g., Self-introduction/I'm going to tell her/What's the weather like?）である。出演者は韓国人児童

2名，韓国語母語話者女性1名，および英語母語話者男性1名である。出演している中学生の英語のレベルは標準的である。英語母語話者の家やレストランを訪ねて英語でコミュニケーションを行い，彼らの間違いや発音の仕方を英語母語話者が説明する形で番組は進行していく。歌，踊り，およびゲームを多く取り入れるなど中学生の興味を引くため，様々な工夫がなされている。

SEL 6（中学1年生）Nonstop English

SEL 6のNonstop English（1学期32回）は中学1年生対象の番組で，中学生の日常生活に関係のある話題を扱ったNonstop English（e.g., Family introduction/ Teen worries and advice/ Farm animals）とScience（e.g., The one and only earth/ What is the solar system?/ Conquer the space），History（e.g., World Festival, Olympics/ Classical music and pop music/ Traditional food），およびMath（e.g., Guessing time/ Challenge to numbers/ Basic of Math）の知識を英語で学ぶ4つの番組で構成されている。出演者は韓国人児童3名，英語母語話者男性1名，および韓国語母語話者女性1名である。Science，History，およびMathは内容重視の指導法が取り入れられており，たとえば，Math Unit 16（Fun with math）では身近な生活やものの中にどのように数学の知識が表れているのかを知ることが狙いであり，子どもたちが美術館を訪問し，英語で形についての説明を行っていた。

内容重視の指導法を取り入れているため興味深い内容を扱っているが，出演している中学生の英語のレベルが高いため，英語母語話者や韓国語母語話者はわかりやすい英語で話しかけようという工夫があまり見られない。ゆえに，視聴している児童が内容を理解できない部分が多いと思われる。

SELシリーズのなかで，最も英語のレベルが高く，日本の中学生には難しい番組である。番組の内容は日本の中学生も興味が持てるような内容なので，日本で同様の番組を制作する際には，標準的なレベルの英語力を持つ中学生を出演させて，彼らにわかるような番組を制作するべきであろう。

SEL 6 中学1年生 Reading Adventure

SEL 6のReading Adventure（2学期16回）は中学1年生対象の読解に重点をおいた番組（e.g., Reading newspapers can be easy!/ How to read a Magazine!/ The Biography of a Great Man）であるが，英語を韓国語に訳していくという訳読中心の番組ではなく，読解のコツいわゆる読解ストラテジーのようなものを教える番組である。出演者は韓国人児童4名，韓国語母語話者女性1名，および英語母語話者男性1名である。たとえば，Unit1ではD-warという映画についての新聞記事を読む活動を行っていたが，映像を見せながら，背景・メインアイデア・トピックについて簡単な英語で話しあった後，キーワードの拾い方のコツ（例：タイトルをまずよく読む，写真に書かれている英文を読む）を教え，その後W5H1をゲームにより答えさせ，D-warの英文記事を理解させていた。

読解の番組ではあるが，D-warという中学生が興味を持てそうな映画を扱っており，中学生が楽しみながら学習できる番組である。英文を訳読するだけではなく読解ストラテジーを教えており，日本も多いに参考にできる番組である。

SEL 7（中学2年生）English Burger

SEL 7のEnglish Burger（1学期32回）は中学2年生対象の番組で，中学生の日常生活に関係のある話題を扱ったEnglish Burger

(e.g., My Future Dream/ My club activities/ At the restaurant) と Science (e.g., Heat Energy/ Weather/ Our Solar System), History (e.g., The History of Space Exploration/ Modes of transportation/ Famous scientists), および Math (e.g., Averages, Medians, Rounding and Estimation/ Numbers/ Number System) の知識を英語で学ぶ4つの番組で構成されている。出演者は韓国人中学生3名、韓国語母語話者女性1名、および英語母語話者男性1名である。Science, History, およびMathは内容重視の指導法を取り入れており、実験を行ったり、科学や歴史や数学の内容を簡単な英語でアニメを使いながら教えるなど様々な工夫が見られ、文型や文法事項を覚えさせるというより科学や歴史や数学などの内容に焦点が当てられている。また、中学生が直接番組に参加するコーナーが多く提供されている。

SEL 5 の Tok Tok English と SEL 6 の Nonstop English よりもわかりやすい番組であるが、これは Tok Tok English と Nonstop English に出演している児童の英語力がかなり高いのに比べ、English Burger に出演している児童の英語は標準レベルであり、彼らに英語を理解させるためにわかりやすく話しかけているためである。ゆえに、Tok Tok English と Nonstop English よりも現場の現状にあった番組であるといえるであろう。また、英語を聞かせるだけでなく英語を話させ、学んだ科学・歴史・数学の内容を確実に理解させようとしている。ゆえに、日本が今後中学校の英語教育に内容重視の指導法を取り入れる際に話し方・教材の提示の仕方などにおいて参考にできる番組である。

SEL 7 (中学2年生) Three Golden Keys

SEL 7 の Three Golden Keys (1学期26回) は中学2年生に4技能「読む」「話す」「聞く」

「書く」を学習させる番組 (e.g., Who ate my cheesecake?/ Our family treasure looks different!/ Can you help him fix his bad habit?) である。出演者は韓国人中学生2名、韓国語話者女性1名、および英語母語話者男性1名であり、Solution Centerからミッションを得て、そのミッションを解決していく形で番組は進行していく。アニメを多く取り入れており、アニメの英語のせりふを字幕として表示するなど随所に工夫が見られるが、上記の English Burger のほうが中学生の興味を引く番組である。

SEL 7 中学2年生 Speaking Factory

SEL 7 の Speaking Factory (2学期16回) は中学2年生を対象にした英語を「話す」ことに重点を置いた番組 (e.g., Welcome to Home shopping/ Excuse me, but I think you're in my seat/ Tell me about yourself) である。ゲームを中心に番組が進行していく。出演者は韓国人中学生1名、韓国語母語話者女性1名、および英語母語話者男性1名である。Unit2では韓国を紹介するというのがテーマになっており、ゲームなどによって韓国の紹介に使う表現を学習していた。また、実際に中学校を訪問し、早口ことばの競争やサバイバルゲームを行うなど中学生を多く出演させている。

SEL 8 中学3年生 English Diary

SEL 8 の English Diary (26回) は中学3年生を対象にした番組 (e.g., If I were you, I would skip lunch/ I don't know what to wear to my blind date/ It is difficult for me to lose weight) であり、出演者は韓国人中学生2名、韓国語母語話者女性1名、および英語母語話者男性1名である。中学3年生の教科書の内容を中心に学び、毎週1つのトピックを提示

し、重要な表現・構文・文法事項などを取り入れて学習していく。日記を書くように自然に生活のなかで英語を学ぶことを目標としている。

SEL 7 まではTok Tok English, Nonstop English, および English Burgerなど英語のみで番組をすすめていく番組がいくつか見られたが、SEL 8 は韓国語による説明が多く、内容も中学 3 年生の興味を引くような内容ではない。ただし、最後のアニメの部分はターゲットになった表現を上手く取り入れていた。

SEL 9 高校 1 年生 고기잡이 English

SEL 9 の고기잡이 English (26回) は高校 1 年生で扱う重要な主題や関連した語彙と文法を学んでいく番組 (e.g., When do you feel stressed? / Improve Your Study Habits! / Have You Ever Eaten Ten Hotdogs?) である。出演者は韓国人高校生 3 名、韓国語母語話者女性 1 名、および英語母語話者男性 1 名である。ただし、出演している高校生の英語のレベルがかなり低く、番組全体において韓国語母語話者の女性が文法や語彙の説明を韓国語で長々と行っている部分が多い。出演している高校生の英語力が低く、英語を苦手とする学生を対象にしている番組であると思われるが、番組の内容があまり高校生の興味を引くようなものではない。ゆえに、彼らがもっと興味を持てるように番組全体の構成および内容を工夫する必要があるのではないと思われる。

SEL10 高校 2 年生 밋있는 English

SEL10 の밋있는 English (26回) は高校 2 年生で学ぶ内容を中心にTopic, Structures, Communication, およびActivityを通して 4 技能をバランスよく学べるように考慮された番組 (e.g., Fashion/ Astronaut/ Global Warming)

である。出演者は韓国人と英米系のハーフと思われる女の子 1 名、韓国人高校生 1 名、韓国語母語話者女性 1 名、および英語母語話者男性 1 名である。Movie, Sports, Fashion, Pet, Shopping, Travelなど高校生の興味を引く話題も多く、一方でAstronaut, Global Warming, Cloningなど知的なトピックも含まれておりバランスのとれた番組である。扱っている話題が高校生の興味を引くものが多いため、SEL 8 およびSEL 9 よりも高校生は楽しく視聴することができるであろう。

7. 考察

本研究では、SEL 1 からSEL10の各番組を分析してきたが、ここではSELに関する全体的な考察を行っていく。

第一に、全体的な傾向としてSEL 1 からSEL 7 までは番組の中での英語使用の割合が徐々に増加していくが、SEL 8 以降は英語を使用する割合が減少していく。SEL 8 以降英語の使用が減少していく理由の一つとして考えられるのは、中学 3 年生になると英語がコミュニケーションの手段であるということよりも、大学入試において高点数獲得がより重要となるため、韓国語での文法や語彙説明が多くなるのではないかと考えられる。

第二に、番組数に関しては (表 1 参照) SEL 1 では 1 番組、SEL 2 からSEL 5 は 2 番組、SEL 6 ・SEL 7 では 3 番組、SEL 8 以降は 1 番組のみである。これらのことから韓国政府が小・中連携に力を入れており、小学校の英語教育導入以降、英語力の格差が地域・学校・児童間において顕著であるため、SEL 6 およびSEL 7 では 3 番組が用意されたのではないかと予想できる。

第三に、李明博大統領の「英語公教育完成プロジェクト」の中でイマージョン教育の導入を計画しているが (杉山, 2009), そのような方

針を受け、SEL 4 のSpy Zone、SEL5のTok Tok English、SEL 6 のNonstop English、およびSEL 7 の English Burger といった内容重視の指導法を取り入れた番組が制作されたのではないかと予想できる。各番組を比較してみると、SEL 5 の Tok Tok EnglishおよびSEL 6 の Nonstop Englishは出演している児童の英語力が高いため、番組はかなり早いペースで進められていく。このため視聴している児童の中には番組の内容をよく理解できない児童も少なからずいるということは容易に予想できる。一方、SEL 7 の English Burgerは英語のレベルが標準的である児童が出演しているため、彼らに合わせた説明が行われている。このように内容重視の指導法を取り入れた番組を制作する際には、英語力が高い児童ではなく、標準的かあるいはそれよりも下のレベルの児童を出演させたほうがわかりやすい番組になることがわかる。

最後に、小・中・高校それぞれについての考察を行う。小学生向けの番組（SEL 1～SEL 5）は、SEL 1 はフォニックスに、SEL 2 以降は文法に重点が置かれており、高学年用の番組になるほど番組での英語の使用が増えている。文法を学ぶ番組としてはSEL 3 のGra Gra Grammer およびSEL 4 のNew Spy Zoneが小学生に文法をわかりやすく楽しく教えているおり、この2つの番組は日本において小学生に文法をどのように教えるべきかなどの示唆を与えてくれる。また、SEL 4 のSpy Zoneは小学生に内容重視の指導法を行う際に参考になると思われる。

中学 1・2 年生用の番組（SEL 6～SEL 7）は全体的に良質な番組が多い。特に、中学 1 年生対象のSEL 6 のReading Adventure は訳読中心ではなく、読解ストラテジーのようなものを教えているが、日本においても参考にしたい番組である。また、中学 2 年生のSEL 7 のEnglish Burgerは英語で科学や社会や数学を教えているが、とてもわかりやすい番組であるため中学生

に内容重視の指導法をどのように行うべきかなどの示唆を与えてくれる。

中学 3 年生および高校生用（SEL 8～SEL10）の番組は全体的に韓国語の使用が多い。SEL 8 およびSEL 9 は中・高校生が興味を持って視聴するような番組であるとはあまり思えないが、SEL10は高校生が興味を持つようなトピックを扱い、リエゾンに関することを歌で説明するなど高校生の番組として参考になる部分が多い。

8. 今後の課題およびまとめ

最後に今後の課題について述べる。第一に、本研究ではSELの番組分析を行ったのみで、SELを使用している実際の授業を観察していない。ゆえに、どのようにSELを活用しているのか実際の授業を観察する必要がある。また、実際にこれらの番組を使用してどの程度の効果が見られたのかなどの調査もする必要があるであろう。さらに、どのような意図で各番組を制作したのかなど番組関係者にインタビューを行うことも必要である。上記のようなさらなる調査を行うことにより、日本において学校放送番組をどのように活用し、どのような番組を制作すべきかなどより明確な示唆を得ることができると思われる。

第二に、本研究では、SELにのみ焦点をあてSEL 1 からSEL10まで番組分析を行ってきたが、SELの他にもEBS-eに小・中・高校生を対象にした多くの番組が放映されており、それらの番組分析も合わせて行う必要がある。

日本で放映されていた学校放送番組と比較した場合、1つ1つの番組を比べれば、日本の番組も韓国の番組とは見劣りしないぐらい良質な番組も多い。しかし、日本は放映している番組数が圧倒的に少ない。アジアの中で教育面における後進国とならないためにも、日本はこの現状をよく理解し、英語教育における放送番組の利用というものを今後真剣に検討していかなければ

ればならないであろう。

引用文献

- 岡秀夫・金森強『小学校英語教育の進め方』
成美堂, 2007年
- カレイラ松崎順子「スーパーえいごリアンを使用した児童英語講師養成講座における実践報告」『JASTEC Journal』26, 2007年, pp.61-76
- 河合忠仁『韓国の英語教育政策—日本の英語教育政策の問題点を探る—』関西大学出版部, 2004年
- 韓国教育部『初等学校教育課程』入手先
〈http://www.kice.re.kr/ko/board/view.do?article_id=60421&menu_id=10134〉(参照2010-01-10), 1997年
- 金泰勲「韓国の初等学校における英語教育の現状と課題」『日本大学教育学会』42, 2007年, pp.75-94
- 杉山明枝「題材と登場人物の発話から分析した韓国初等学校英語教科書の特徴」『日本児童英語教育学会第27回全国大会資料集』2006年, pp.77-80
- 杉山明枝「韓国初等学校英語教育の10年と今後の動向小学校英語必修化に動きだした日本への示唆」『論集』29, 2008年, pp.64-88
- 杉山明枝「韓国初等学校英語教育改革と日本への示唆—2007年改訂教育課程から李明博英語改革法案へ—」『論集』30, 2009年, pp.48-69
- 八田玄二「韓国の小学校英語教育導入の経緯—日本の場合と比較して」『椋山女学園大学研究論集 人文科学篇』38, 2007年, pp.13-22
- 樋口晶彦「日本の外国語教育改革—韓国の第7次教育改革とヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の理念から—」『鹿児島大学教育学部研究紀要人文・社会科学編』58, 2007年,

pp. 1-26

- 樋口晶彦「韓国の初等学校英語教育—第7次教育課程と忠清南道の現状—」『鹿児島大学教育学部研究紀要人文・社会科学編』59, 2008年, pp.127-141
- 樋口謙一郎「韓国—英語教育政策の経緯と論点」『小学生に英語を教えるとは? アジアと日本の教育現場から』めこん, 2008年, pp.123-136
- 樋口忠彦「諸外国における小学校外国語教育」
樋口忠彦(編)『これからの小学校英語教育—理論と実践—』研究社, 2005年, pp.1-33
- 渡辺誓司「放送・メディアが小学校英語を豊かにする—韓国の事例から—」『放送研究と調査』6月号, 2008年, pp. 56-65
- Brington, D. M., Snow, M. A. & Wesche, M. B. Content-based second language instruction. New York: Newbury House, 1989.
- EBS-e「EBS English」入手先
〈<http://www.ebse.co.kr/>〉(参照2009-10-10) n.d.
- Scovel, T. A time to Speak: A psycholinguistic inquiry into the critical period for human speech. New York: Newbury House, 1988.
- 師子鹿元美(2009)。「韓国における早期英語教育—釜山広域市小中学校英語没入教育特別職務研修プログラムを通して—」『別府大学短期大学部紀要』28, 2009年, pp.71-80
- Stryker, S. B. & Leaver, B. L. Content-based instruction : Some lessons and implications. In S. B. Stryker and B. L. Leaver (Eds.) Content-based instruction in foreign language education (pp.285-312). Washington, D.C.: Georgetown University Press, 1997.